

地域ぐるみで 福祉の心を育てよう



編集・発行
各務原市社会福祉協議会
那加一支部
支部長 横山助市

みんなの力で住みよいまちづくり



各務原市社会福祉協議会

那加一支部長

横山助市

たび「社協那加」の発刊にあたり謹んでご挨拶申し上げます。昭和五十七年各務原市社会福祉協議会「社協」が発足以来、校下のみなさま方に心からのご支援を賜り、また年々の役員の方々にもほんとうにご苦労をお掛け致しました。お陰で今日の諸行事が出来るようになりました。厚くお礼申

し上げます。福祉の心とはお互い助け合う事で有り、毎日樂しく明るい生活を送りたいと思うのは誰しも願うところであると思います。お互い老後の事、また不慮の災難などさけられない事がいろいろ有って一生を送らねばなりません。その中にはお金では解決出来ない事が沢山出て来ます。そして人と人とのふれあいの大切さが如何なるもの



高齢者健康づくり教室に参加したみなさん、健康体操やゲームに笑顔が絶えませんでした。私達の「ふかみよい福祉の行き届き」を痛感するものです。

か。あります。今後とも一緒に心をこめてご理解を頂いてご挨拶、お禮の言葉にしたいと思います。

高齢者へのアンケート結果

「子どもの家族との同居を望む」

那加一
77.3%

各務原市福祉部福祉課は、二月中旬に高齢者福祉調査の結果をまとめ発表しました。それによりますと、年代、地域、職業などによって老後のどちらの方にかなり差があることが分かりました。

調査は六十一年九月、今後の老人福祉施策の参考にしようと、六十五歳以上の人口の四分の一に当たる約一千四百人に「老人生活実態調査」として、また五十一六十四歳の一割の約千八百人に「老後に関する意識調査」として実施され、それぞれ約九六%の回答を得ています。

子どもとの同居については、老人の四三%が「一緒に住むのが当然」と答えたのに対し、成人（五十一六十四歳）では「できれば一緒によい」が三六%で第一位でした。「那加一」地区では、「一緒に住むのが当然」と答えた老人五〇.七%、成人一六.七%、「できれば一緒に住む方がよい」と答えた老人二六.六%、成人四六.一%と子どもの家族との同居派が多く見られます。地区別では、「稲羽西」「鵜沼第一」などが同居派、市街地の「那加二」や新興団地地域の「緑苑」「八木山」などで別居派が目立ち、住宅事情を反映しているように思われます。

ねたきりになつた場合の対応については、老人の七四%、成人の六二%が「家族に世話をみてもらいたい」と答えています。「那加一」地区においても老人の七二.九%、成人の四一%が「家族に世話をみてもらいたい」と答えています。ただし、成人の二三.七%が「病院に入院して世話をみてもらいたい」と考えていることもわかりました。

老後の生きがいは、老人が「娯楽・旅行」「友人・知人との付き合い」「家庭内の仕事」の順だったのに対し、成人では「娯楽・旅行」の次に半数以上が「趣味」を挙げています。受け身的な楽しみとしての「娯楽・旅行」と、自ら積極的に楽しむ「趣味」との受け止め方の違いをみせています。

また、成人のみに質問した「何歳以上が『老人』か」については、「自営業」の六割が「七十歳以上」としているのに対し「常勤の勤め人」の四割以上は「六十五歳以上」と答え、「老人」の年齢をもう少し若く考えている傾向がみられました。

この高齢者福祉調査の結果や、下記の「数字で見る那加一」を参考に、私たち一人ひとりが自らの問題としてどうえ、今後の社会福祉協議会那加一支部の活動に少しでも生かしてゆきたいと考えています。

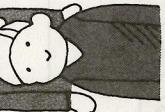
■1世帯人員

各務原市
3.6人**3.6人**

ねたきり老人

各務原市
(老人人口の2.3%)**17人**
(老人人口の1.9%)

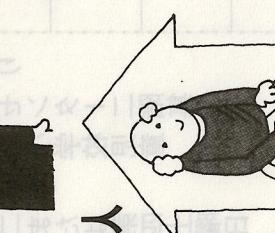
■世帯数

各務原市
34,607世帯**2,516世帯**

■老人人口 (65歳以上)

各務原市
(人口の7.6%)**876人**

(人口の9.5%)



■人口

各務原市
(男4,579人・女4,616人)**195人**

(老人人口の3.5%)



■1人暮らし老人

各務原市
(老人人口の3.5%)**25人**

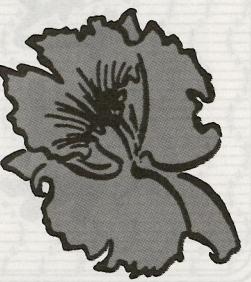
(老人人口の1.9%)

数字で見る那加一

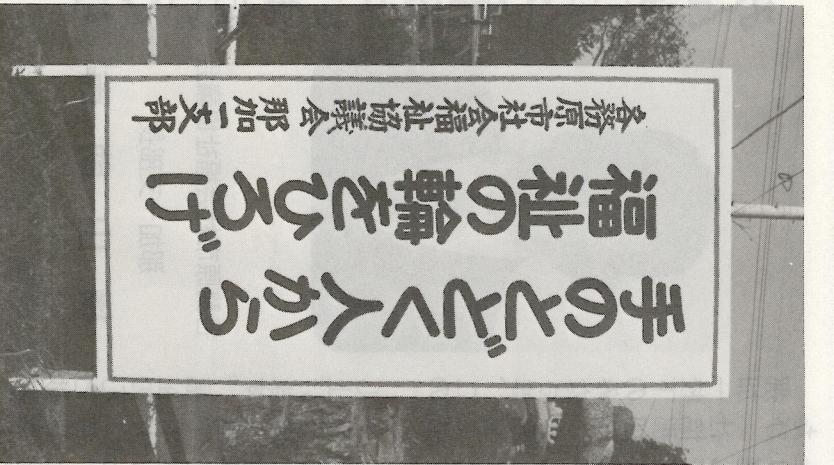
昭和61年1月10日現在

主な活動から

まちづくりへ向けて



福祉看板の設置



- みんなのじあわせみんなで守る
- 手のどくへ人から福祉の輪をひろげ
- 助け合いで笑顔よい社会
- 温かい心が通うまちづへじ
- ひろげよつ心のふれあい福祉の輪
- わたしにできる福祉がきっとある

1



では、「福祉に開する標語」を広く校内
で、那加一支部に掲げました。
の優秀作品六点を福祉啓蒙看板
から募集、次に掲げました。

友愛訪問 の実施



危険防止看板の取りつけ

2



ねたきり老人宅を訪問し、お年寄りや介護者を激励

ていただいた手作りのお願いです。
近所の助け合いが基本なのです。隣りがいあった時
にこの事業は何せ難じていいのです。隣りがいあれば
助け、また、助けられる。ついに「が」福祉のま
ちへここへがると思ひます。

中に入ることで「近」への者としての助けあり」活動
社会福祉協議会那加一支部では、いま福祉のまち

三世代ふれあい広場 の実施



大切にしたい老人と子どものふれあい

月	内 容	月	内 容
5月	紙芝居	11月	映画
月外遊び	紙細工	1月	紙細工
6月	七夕飾り作り	12月	しめ縄作り
7月	七夕まつり	1月	書初め大会
8月	映画	2月	わら細工
9月	紙細工	月	紙工作
10月	福祉フェスティバルに参加(折り紙)	3月	映画 室内遊び
月	クロッケーゴルフ		

三月まで楽し催しが計画されています。
しない、わら細工なども教えてもらえるなど五月から
と長塚町の浅野繁さんの指導により、学校ではやらん
とい広場」が開かれています。

三世代ふれあい広場は、新加納町の今尾嘉一さん
を中心事業をすすめてあります。
とい広場」が開かれています。

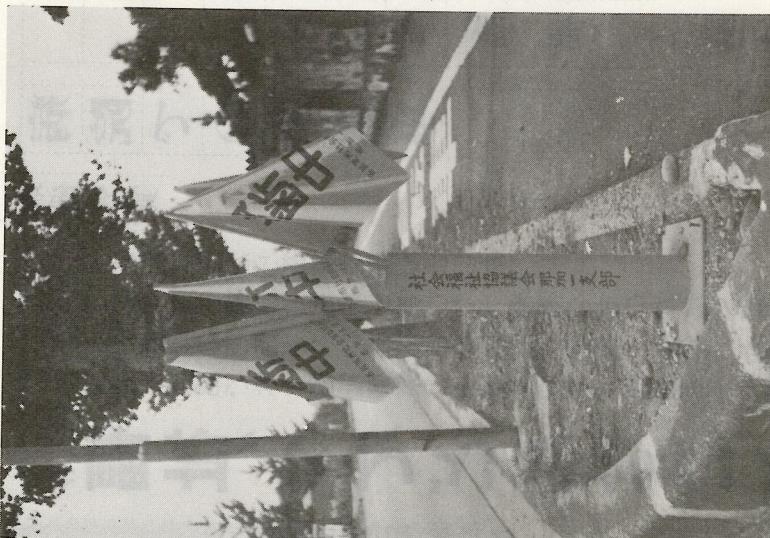
「おじいさん、これでいいかなあ」



支部活動



5 みんなのふれあい

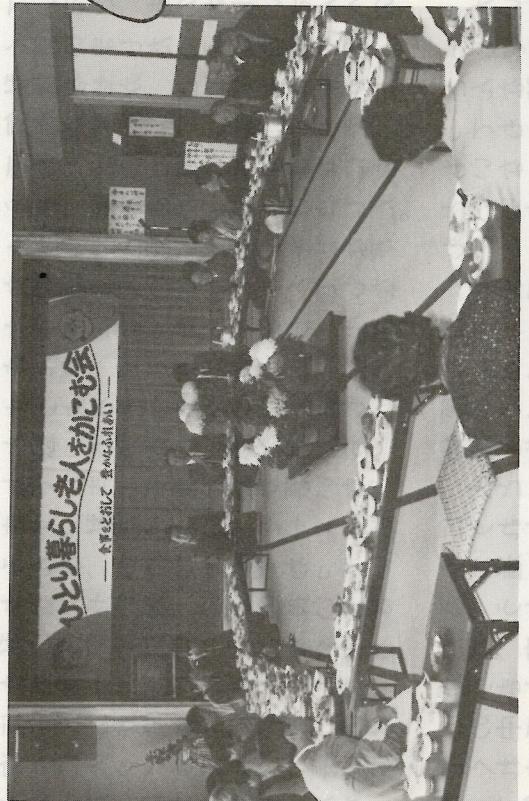


交通事故防止促進のため

横断旗を設置

横断旗がすぐになくなります。みんなの物です。大切に使って下さい。

6 ひとり暮らし老人を囲む会



那加一支部では、十一月十八日に各務原市総合福祉会館にて「ひとり暮らし老人をかこむ会」を開催しました。地域婦人ボランティアの手作り料理による昼食会を中心に楽しい一日にしたいと計画した催しに、参加された十名のおどしよりは、支部役員と共に心のこもった手作り料理を味わいながら、日常生活についてや、世間話に話がはずみ、またカラオケなどの余興も加わって一日中、くつろいだ雰囲気の中で楽しんでいただきました。

「ひとり暮らし老人を囲む会」に参加された七十五歳のおじいさんから、次のようなお便りをいただきましたので紹介します。

「独居生活五年余、古希の峰をこえ愚見の一端を申し述べます。那加一支部社協においては独



ボランティアによる手作りの食事を前に話をはずみます

7 歌や体操で健康づくり

那加一支部では、ゲートボールなどの施設前における機運を高めようと、2月1日の午後、那加第一小学校体育館で「高齢者健康づくり教室」を開きました。那加一校下の17の単位老人クラブから約80人が参加し、歌に合わせた体操やゲームで楽しいひとときを過ごしました。



8 市民運動会にも共催



